

目次

1. 工作機械統計・産業動向

- ◆米国工作機械受注統計(12月) 1
- ◆米国工作機械受注統計(地域別) 2
- ◆台湾工作機械輸出入統計(2010年1～10月) ... 2

2. 主要国・地域経済動向

- ◆米国：製造業設備稼働率は増加(12月) 3
- ◆米国：AMT、製造業政策担当大統領補佐官
ポストの新設を歓迎 3
- ◆米国：製造業部門、18ヵ月連続で成長
(1月) 4
- ◆「欧州工作機械見本市EMO 2011」、参加
順調で回復示す 4
- ◆欧州：EU主要国製造業景気動向指数(D.I.)
と資本財生産月次推移(1月) 5
- ◆独11月機械受注43%増に 5
- ◆トルコ：トルコ機械工業会のプロフィール... 5
- ◆インドの工作機械産業は再び高成長軌道に
—10年度の生産高がほぼ倍増する見通し ... 6
- ◆中国：設備製造業景気指数が15ヵ月連続で
上昇 7
- ◆中国：中国建設機械産業：2010年は予測を
上回る成長、2011年も成長持続へ 8

3. 工作機械関連企業動向

- ◆米国：Hurco社、2010年度第4四半期および
通年の決算を発表 8
- ◆スイス：受注、販売ともに好調だった
Mikron社の2010年決算 8

4. その他

- ◆ユーザー関連トピックス 9

5. 日工会外需状況(1月) 11

1. 工作機械統計・産業動向

◆米国工作機械受注統計(12月)

AMT(米国製造技術工業協会)及びAMTDA(米国工作機械販売協会)発表の受注統計(USMTC)によると、2010年12月の米国切削型工作機械受注は、4億178万ドルで前月比33.0%増、前年同月比116.5%増となった。

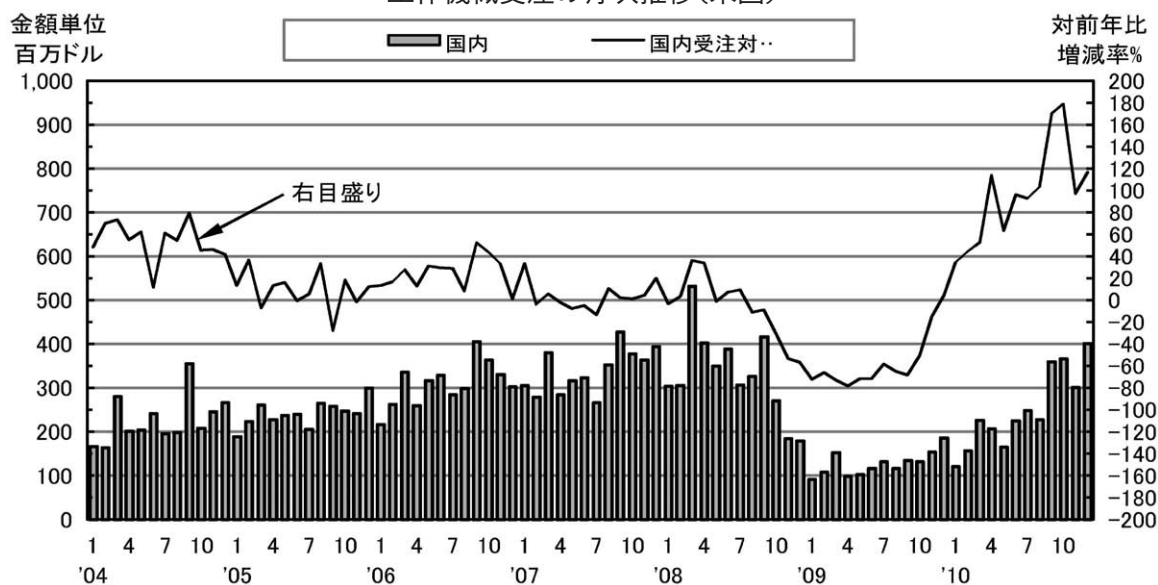
AMTのWoods専務理事は「USMTC統計の歴史の中で初めて、IMTS後4ヵ月連続の成長を記録し、2010年は増加傾向で幕を閉じた。2010年受注(成形型含む)は対前年比85%増と好調を記録し、12月受注は前月比40.9%(成形型含む)であった。在庫の回復と引き合いが増えていることから、2011年も良好な結果となるであろうと楽観的見通しを立てている。」と述べた。

(USMTCレポート 2月14日付)

米国工作機械(切削型)受注統計
(金額単位:千ドル)

年 月	受 注	
	台 数	金 額
2009年1月	694	91,390
2月	780	107,769
3月	963	153,364
4月	855	99,162
5月	814	103,608
6月	853	117,771
7月	907	131,996
8月	806	117,583
9月	920	136,133
10月	982	132,613
11月	945	153,872
12月	1,213	185,539
2009年累計	10,732	1,530,800
2010年1月	790	120,772
2月	910	157,446
3月	1,271	225,973
4月	1,235	206,342
5月	1,141	165,076
6月	1,385	224,688
7月	1,349	249,037
8月	1,332	227,087
9月	1,859	359,647
10月	1,956	367,035
11月	1,876	302,010
12月	2,125	401,782
2010年累計	17,229	3,006,895

工作機械受注の月次推移(米国)



◆米国工作機械受注統計(地域別)

(単位：百万ドル)

地 域 別		2010年12月 (P)	2010年11月	前月比 (%)	前年同月	前年同月比 (%)	2010年累計 (P)	2009年累計 (R)	前年同期比 (%)
全 米	切 削 型	401.78	302.01	33.0	185.54	116.5	3,006.89	1,510.24	99.1
	成 形 型	44.98	15.02	199.4	32.62	37.9	229.11	236.05	-2.9
	計	446.76	317.03	40.9	218.16	104.8	3236.00	1746.30	85.3
北 東 部	切 削 型	60.25	58.00	3.9	39.09	54.1	550.23	298.69	84.2
	成 形 型	5.91	4.50	31.4	4.28	38.2	39.56	39.52	0.1
	計	66.17	62.50	5.9	43.37	52.6	589.79	338.21	74.4
南 部	切 削 型	37.71	33.21	13.6	23.43	61.0	394.12	209.68	88.0
	成 形 型	7.90	2.73	189.8	6.00	31.7	36.15	34.43	5.0
	計	45.62	35.94	26.9	29.43	55.0	430.27	244.12	76.3
中 西 部	切 削 型	156.87	106.99	46.6	50.12	213.0	962.38	425.96	125.9
	成 形 型	9.09	4.43	105.3	11.51	-21.1	58.37	72.35	-19.3
	計	165.96	111.42	48.9	61.63	169.3	1020.76	498.31	104.8
中 部	切 削 型	102.72	69.10	48.6	48.24	112.9	769.92	372.02	107.0
	成 形 型	10.65	2.00	432.3	6.27	69.7	64.94	54.24	19.7
	計	113.36	71.10	59.4	54.51	108.0	834.86	426.26	95.9
西 部	切 削 型	44.23	34.70	27.4	24.66	79.3	330.24	203.89	62.0
	成 形 型	11.43	1.37	734.1	4.55	150.9	30.09	35.51	-15.3
	計	55.65	36.07	54.3	29.22	90.5	360.33	239.40	50.5

P：暫定値 R：改定値

四捨五入により合計値及び%は一致しない場合がある。

出所：USMTC

◆台湾工作機械輸出入統計(2010年1～10月)

台湾工作機械機種別輸出入統計(2010年1～10月)

(単位：千USドル)

機 種 名	輸 出			輸 入		
	2010.1-10	2009.1-10	前年比(%)	2010.1-10	2009.1-10	前年比(%)
放電加工機	112,421	60,027	87.3	218,068	80,374	171.3
マシニングセンタ	731,652	371,620	96.9	41,440	21,469	93.0
旋盤	439,376	326,028	34.8	77,758	31,555	146.4
ボール盤・フライス盤・中ぐり盤	296,121	164,281	80.3	25,850	15,184	70.2
研削盤	138,465	69,522	99.2	56,386	48,031	17.4
歯切り盤・歯車機械	131,411	79,345	65.6	54,962	25,807	113.0
切 削 型 合 計	1,849,446	1,070,823	72.7	474,464	222,420	113.3

出所：海関進出口統計月報

台湾工作機械国別輸出入統計(2010年1～10月)

(単位：千USドル)

輸 出					輸 入				
順 位	国 別	2010.1-10	2009.1-10	前年比(%)	順 位	国 別	2010.1-10	2009.1-10	前年比(%)
1	中国・香港	1,116,624	526,204	112.2	1	日 本	356,719	132,358	169.5
2	米 国	121,757	107,863	12.9	2	ド イ ツ	48,899	40,201	21.6
3	イ ン ド	100,728	45,856	119.7	3	ス イ ス	33,329	15,746	111.7
4	タ イ	96,790	55,575	74.2	4	中国・香港	32,553	19,535	66.6
5	ブラジル	90,367	47,787	89.1	5	米 国	20,146	15,384	31.0
6	トルコ	89,846	28,641	213.7	6	韓 国	19,156	13,782	39.0
7	マレーシア	82,059	39,366	108.5	7	イ タ リ ア	9,149	17,358	-47.3
	そ の 他	669,604	554,527	20.8		そ の 他	62,594	22,750	175.1
	合 計	2,367,775	1,405,819	68.4		合 計	582,545	277,114	110.2

出所：海関進出口統計月報

2. 主要国・地域経済動向

◆米国：製造業設備稼働率は増加(12月)

2010年12月の設備稼働率（速報値）は、全製造業で73.2%、耐久財製造業で71.2%、機械製造業で76.3%となった。

前月比で見ると、全製造業では0.3ポイント、機械製造業と耐久財製造業では0.2ポイント夫々増加している。

一方、前年同月比で見ると全製造業では4.1ポイント増加している。

米国製造業の設備稼働率月次推移



(FRB Statistical Release G.17(419)/1月14日付)

◆米国：AMT、製造業政策担当大統領補佐官ポストの新設を歓迎

米国製造技術工業協会（AMT）は、オバマ米大

統領が製造業政策を監督する新たなポストを新設したことを歓迎している。

ホワイトハウスの国家経済会議（NEC）内に製造業政策担当の大統領補佐官に任命されたのはロン・ブルーム氏である。同氏は、2009年より行政府内の自動車産業専門家であり、同業界のリストラを監督している。

AMTのDouglas K. Woods専務理事は、同ポスト新設は米国の国家製造業戦略の確立を目指す正しい方向への第一歩であると好感している。

「AMTは過去2年近く、協会が掲げる製造業マン

デート（使命）の一環として、ホワイトハウス内に製造業政策に関する上級ポストの創設を提言してきた」とWoods専務は述べている。「雇用創出と競争力は製造業を重要視する国家的アジェンダに左右されると行政府が認識した結果だと思う」

「米国の将来は、その製造業を活性化する連邦政府の強力な意志にかかっている」とWoods専務は言う。「オバマ大統領が一般教

書演説で、イノベーションとR&D、グローバルな競争力、教育、熟練労働力（スマートフォース）の重要性を力説したことは正しい方向を目指したものである」

「AMTは、米国企業が世界でトップクラスにな

るために必要な基盤とツールの獲得を確かなものにする国家製造業戦略に関してブルーム補佐官に協力していきたい」

(AMT プレスリリース 2011年1月28日付)

◆米国：製造業部門、18 ヶ月連続で成長(1月)

米サプライ・マネジメント協会（ISM）の購買管理指数（PMI：製造業350社以上のアンケート調査に基づく月次景況指数）によると、2011年1月のISM指数（PMI）は60.8%と景況感の分かれ目である50%を上回り、製造業部門の活動も18 ヶ月連続で成長した。一方、経済全体の動向はPMIが上昇・下降の分岐点41.2%を20 ヶ月連続で上回り、経済成長を遂げた。

1月の調査結果について、ISMは次のようにコメントしている。「PMIは2004年5月以来最高水準となっている。製造業部門は1月に急成長した。前月を上回る伸びは6 ヶ月連続となった。新規受注と生産が引き続き好調で、雇用も2004年5月以来初めて60%を超過している」

なお、1月の製造業の景況感について、対象18業種中、次の14業種が「企業活動を拡大した」と回答している。石油・石炭製品、鉄鋼・非鉄金属、アパレル・皮革製品、木材製品、コンピューター・電子製品、輸送用機械、金属製品、機械類、紙製品、雑貨、化学製品、家具類、食品・飲料・たばこ製品、電気機器・家電製品・部品。

ISMが発表した1月の主要個別指数の前月比変動傾向は以下の通り。

項 目	2011年 1月指数	2010年 12月指数	備 考
I S M 指 数 (PMI)	60.8	58.5	12月比2.3ポイント上昇。 製造業は18 ヶ月連続成長。 1月のPMI (60.8%) は年率 換算実質GDP成長率6.4% に相当。
生 産	63.5	63.0	12月比0.5ポイント上昇。 拡大の基準である50.4%を 20 ヶ月連続で上回った。 13業種が成長を報告した。
新 規 受 注	67.8	62.0	12月比5.8ポイント上昇。 19 ヶ月連続で増加した。 12業種が成長を報告した。
受 注 残 高 (季節調整なし)	58.0	47.0	前月比11ポイント上昇。 10業種が増加を報告した。
サプライヤー納期	58.6	56.7	12月比1.9ポイント上昇。 長期化の基準である50% を20 ヶ月連続で上回った。 8業種が長期化を報告した。
在 庫	52.4	51.8	前月比0.6ポイント上昇。7 ヵ月連続で増加。9業種が 在庫増を報告した。
雇 用	61.7	58.9	12月比2.8ポイント上昇。 16 ヶ月連続で増加。11業 種が増加を報告した。
仕 入 れ 価 格	81.5	72.5	前月比9ポイント上昇。19 ヵ月連続で50%を超過。 16業種が上昇を報告した。
輸 出 受 注	62.0	54.5	前月比7.5ポイント上昇。 19 ヶ月連続の増加。11業 種が増加を報告。
原 材 料 輸 入	55.0	50.5	前月比4.5ポイント上昇。 17 ヶ月連続の増加。10業 種が増加を報告した。

(ISM Manufacturing Report on Business 2011年2月1日付)

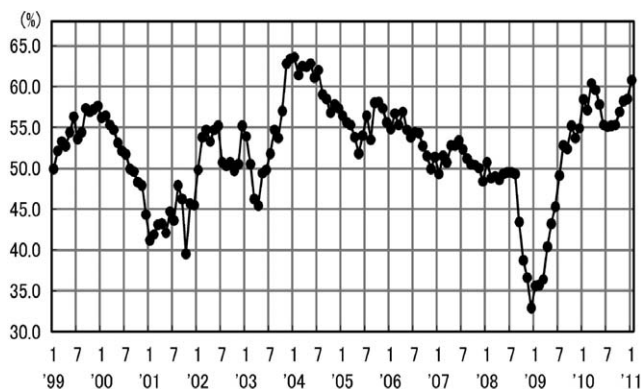
◆「欧州工作機械見本市 EMO 2011」、参加順調で回復示す

独ハノーバーで今年開催される「欧州工作機械見本市 EMO 2011」（9月19日～24日）で出展企業の申し込みが順調に進んでいる。主催者団体のドイツ工作機械工業会（VDW）によると、出展予定企業数はすでに1,500社に達しており、順調に進めば、過去最大となった「EMO 2007」と同程度の水準になる見通しだ。

2007年にハノーバーで開催された「EMO 2007」では42カ国から2,120社が参加。80カ国から16万6,500人が訪れ、企業数、来場者数ともに過去最大を記録した。

EMOは2年に1度、ドイツとイタリアで相互開催

ISM 指数の推移



される展示会で、米国のIMTS（シカゴ）、日本のJIMTOF（東京）と並び、世界の3大工作機械見本市に数えられている。

イタリア・ミラノで2009年に開かれた前回の「EMO 2009」は、世界的な不況の影響を受け、来場者数が12万4,660人に減少。出展企業数も約1,400社に落ち込んだ。

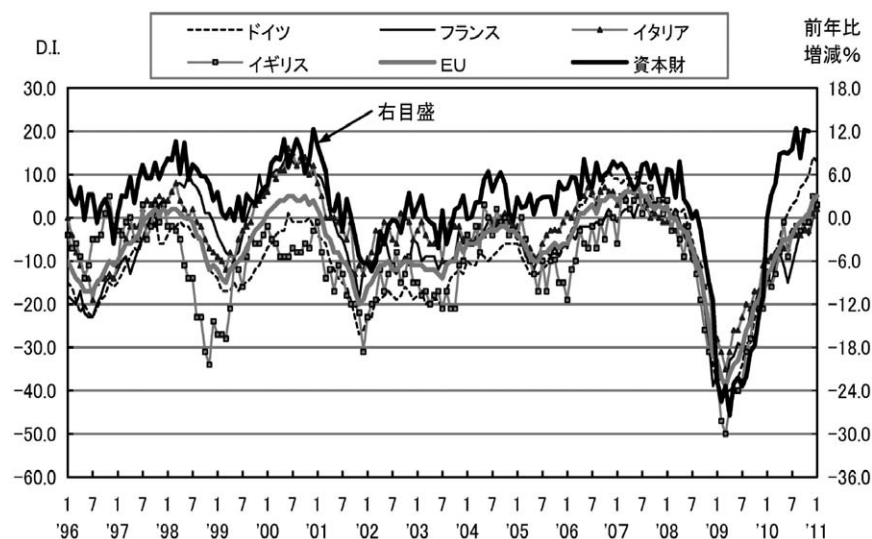
（MaschinenMarkt 2011年1月17日付）

◆欧州：EU主要国製造業景気動向指数(D.I.)と資本財生産月次推移(1月)

欧州委員会の発表した2011年1月のEU主要国製造業景気動向指数（D.I.）（修正後）によると、EU全体では1ポイント上昇している。国別では、フランスが5ポイント、イタリアが1ポイント夫々上昇したものの、ドイツが1ポイント、イギリスが2ポイント夫々後退している。

一方、ユーロ圏の資本財生産については、2010年11月は前年同月比で12.0%増となった。なお、2010年12及び2011年1月の数字は未発表である。

EU主要国製造業景気動向指数(D.I.)と資本財生産月次推移



（欧州委員会 Monthly Survey of Manufacturing Industry 及び Industrial Production 調査）

◆独11月機械受注43%増に

ドイツ機械工業連盟（VDMA）が12日発表した2010年11月の業界受注高は前年同月比43%増と大

幅に拡大した。国外受注が53%伸びて全体をけん引。国内も23%増えた。

国外はアジアや米国からの受注が特に好調だった。足元の欧州は一部のユーロ加盟国の財政危機とそれに伴う景気低迷が響き、伸び率が低かったという。

大型受注による統計上のブレが少ない3カ月単位の比較をみると、9～11月は前年同期を34%上回った。国外が38%、国内が27%増えている。部門別では鋳造機械と繊維機械が100%以上の幅で拡大した。建設・建材機械と農業機械、物流機械、パワーシステムは増加幅が平均を下回った。

（MaschinenMarkt 2011年1月12日付）

◆トルコ：トルコ機械工業会のプロフィール

1990年に設立されたトルコ機械工業会（MIB）は、あらゆる種類の機械類およびコンポーネントの製造業者の業界団体である。MIBは1999年より欧州工作機械工業連盟（CECIMO）のメンバーであり、2005年にはPNEUROPに加盟している。

MIB加盟200社のうち、80社が工作機械メーカーである。MIBメンバーはトルコの機械類総輸出高の65%、工作機械総輸出高の95%を占めている。

〈活動〉

MIBはトルコ商工省の依頼に応じて2009年に機械工業戦略レポートをまとめたが、その後、政府政策として採用されている。

また、MIBはトルコ機械工業の発展のため年平均5、6回は国

際展示会に参加している。2010年11月に実施した中国へのビジネスミッションでは、上海と重慶を訪問し、中国企業にプレゼンを行った。

〈工作機械産業〉

1950年代に芽生えたトルコの工作機械産業は長らく国内市場中心だった。海外市場を目指したの

は、経済危機が発生した1995年からであった。

トルコの工作機械産業は輸出/生産の面で世界第15位の規模となっている。

輸出高は1995年の1,690万ユーロから、2000年の6,930万ユーロ、2008年の3億4,980万ユーロと増加した。

生産高は1995年の1億1,940万ユーロから、2000年の2億ユーロ、2008年の4億4,200万ユーロに拡大した。

輸出高と生産高は2009年にそれぞれ2億5,650万ユーロ、3億1,630万ユーロに減少した。

輸出が急増している仕向国は、ロシア、ブラジル、ポーランド、エジプト、イラクなどである。

製品は中程度からハイテクとなっている。金属加工機械がトルコの工作機械輸出の73%、生産の70.6%を占めている。工作機械輸入の61%は金属切削機械で、ドイツからの輸入が最も多く、イタリア、台湾と続いている。

MIBのArslan Sanir専務理事は、「EUがトルコの工作機械貿易にとって最も重要なパートナーである。トルコは工作機械の53%をEU諸国に輸出し、輸入の51%はEUからのものである」と述べている。

だが、EUが締結するFTAはトルコの業界にマイナスの影響を及ぼし、不公正競争をもたらしているという。

EUとトルコの関税同盟協定の結果、トルコは第三国からの輸入に対してEUと同率の関税を適用するからである。

だが、EUとFTAを締結している諸国へのトルコからの輸出には関税は削減されないのである（トルコはEU加盟国でないため）。

トルコ政府はその是正に向けて率先してロビー活動を行っているものの、欧州委員会はトルコと同条件によるFTA参加を保証する行動は起こしてくれていない。

(CECIMO 機関誌『Inside Cecimo』 2011年冬季号)

◆インドの工作機械産業は再び高成長軌道に— 10 年度の生産高がほぼ倍増する見通し

インドの工作機械産業は、08年度以降景気の後退により2年連続して減少したが、10年度は、自動車産業の回復に伴って再び高成長軌道に復帰している。インド工作機械工業会（Indian Machine Tool Manufacturers' Association、IMTMA）によると、10年度におけるインドの工作機械の生産高は310億ルピー（1ドル＝44.6ルピー）に達し、前年度比でほぼ倍増すると見られる。

国内の工作機械産業は07年度、生産高が190億2,000万ルピーと過去最高を記録した後、08年度は世界的な景気後退の影響で25%の大幅減となった。09年度は、景気回復に伴い生産高が15%の拡大を見せたが、07年度の水準よりかなり低かった（表1参照）。また、工作機械の輸入と売上高も07年度の水準よりそれぞれ19%、17.2%減少していた。

＜輸入への依存度は70%と高い＞

IMTMAによれば、インドは工作機械の売上高では世界8位、生産高では19位を占める。10年度には、工作機械の内需が約900億ルピーに達すると予想されており、生産高が倍増しても、需要の30%しか満たせない。以前から、国内生産額の4倍超の工作機械を輸入に依存する構造になっている。主要な輸入先はドイツと中国であり、日本や韓国がこれに続く。また、台湾も抬頭してきている。

部門別では、自動車・自動車部品産業が内需の約60%を占めており、その他、航空宇宙、エネルギー、ヘルスケア、鉄道、防衛などの分野からもハイエンド工作機械の需要が増えつつある。（1月21日付

表1 インド工作機械産業の動向

(単位: 1000万ルピー、%)

年 度	生産高	輸入額	輸出額	売上高
2007	1,902 (10.0)	5,992 (28.7)	147 (101.4)	7,747 (22.8)
2008	1,425 (△25.0)	6,271 (4.7)	90 (△38.8)	7,606 (△1.8)
2009	1,652 (15.9)	4,852 (△22.6)	81 (△10.0)	6,413 (△15.7)

(出所: IMTMA)

(注) カッコ内は前年度比増減率

けタイムズ・オフ・インディア紙)。

<バンガロールは工作機械産業の集積地>

インドでは、現在450社が工作機械及び部品を製造しているがその60%が零細企業であり、生産高の約80%は主要10社によって生産されている。地域別では、バンガロールは工作機械第一の拠点である。その他、タミル・ナドゥ州ではチェンナイとコイंबトール、マハラシュトラ州ではムンバイとプネ、パンジャブ州でバタラとルディアナ、グジャラート州ではアーメダバード、バローダ、ジャムナガル、ラージコート、スレンドラナガルなどが主要な製造拠点として知られている。

バンガロールの国営のヒンドゥスターン工作機械(HMT)、民間のエース・グループ(Ace Group)、バーラト・フリッツ・ワーナー(BFW)、ケンナメタル・インド(Kennametal India)の4社がインド全生産高の50%を占めている。なかでも、HMTのみが総生産高の32%を占める(10年8月24日付けビジネス・スタンダード紙)。

ちなみに、バンガロールには日本の工作機械関連メーカーも数多く進出している。ファナック、牧野フライス、油研工業、アマダ、村田機械、ソーディック、三菱マテリアル、森精機、シチズン・マシナリー、三菱電機、ジェイテクト、オークマ、滝澤鉄工所、山善、ブラザーなどである。

<今後10年間、年率25%伸びを目指す>

10年度に入ってから、自動車販売が平均30%の高いペースで伸びている。この傾向は今後もしばらく続くと予想されている。インド自動車部品工業会(ACMA)の試算では、20年までに乗用車販売は現行のレベルより4倍、二輪車が2.5倍、乗用車が5倍とそれぞれ大幅に伸びるが、部品の需給ギャップを埋めるには向こう10年で毎年20億~30億ドルの投資が必要となる。従って、現地の工作機械メーカーにとっても、生産能力の7~8倍拡大は不可欠となるとしている。

自動車・自動車部品産業からの需要拡大を基に、IMTMAは、工作機械の生産高を今後10年間、年率

25%で伸ばすかなり野心的な目標を設定している。この計算によれば、20年までに生産高が2300億ドルの規模に達することになる。しかし、こうした目標達成には、技術開発や生産能力拡大などに400億ルピーの投資も必要となる。その一環としてIMATAは、200億ルピーの政府補助金を要求している。さらにこれとは別に、プネ、ベルゴム、コイंबトールなどで工作機械の産業クラスターを更に集積させるために、140億ルピーの政府補助金も期待している。IMTMAは、工作機械の国内生産への依存度を15年までに50%、20年までに67%に拡大することを目指している(1月18日付けビジネス・スタンダード紙)。

<各社が増産や技術開発に重点>

なお、自動車並びに航空宇宙、エネルギー、ヘルスケアなどの分野から需要の急拡大に伴い、多くの現地の工作機械メーカーが、生産能力拡大や技術開発などに本腰を入れ始めている。ムンバイのプレミア・リミテッドは、過去2年間に増産や研究開発(R&D)で12億ルピーを投資した。同社は、プネ施設の増産の他、バンガロールで新しい研究開発センターの設立を予定している。

また、工作機械部門への海外投資も増加傾向にある。独Starrag-Heckert社は最近、バンガロールで工作機械の新工場を建設する計画を発表しており、向こう2年に5億ルピーを投資する。そのほか、独ギルデマイスターと日系森精機は共同で新技術開発センターを設立する予定である。

(インド経済短信 2011年1月30日付)

◆中国：設備製造業景気指数が15カ月連続で上昇

経済日報社中経産業景気指数研究センターと国家統計局中国経済景気監測センターは18日、共同で編纂した産業景気指数を発表した。その指数報告書によると、2010年第4四半期(10~12月)の設備製造業景気指数は前四半期比0.9ポイント増の103ポイント(満点100ポイント)で、これにより、同指数は15カ月連続の上昇を記録した。同日、

2010年第4四半期の家電景気指数が100ポイントだったことも発表されたが、中国家用電器協会の姜風理事長は、「昨年の中国の家電業界は世界的金融危機の影響を脱し、生産高、売上高、輸出などは史上最高記録を更新した。新たな情勢を背景にした業界の主要任務は、産業構造の最適化と製品のハイエンド化になるだろう」と話した。
(新華社新華網ニュース 1月19日付)

◆中国：中国建設機械産業：2010年は予測を上回る成長、2011年も成長持続へ

2010年、中国の建機産業は固定資産投資とインフラ投資の拡大による建機需要の急増により予測を超える成長を見せた。最新のデータによると、2011年1～11月の掘削・土工機械の生産台数は前年比57.78%増の42万3,400台、ショベルは同65.13%増の16万9,700台、締め固め機械は同35.30%増の8万400台、コンクリート機械は同10.42%増の33万8,700台となった。第12次5ヵ年計画（2011～2015年）期間中も、建機産業の成長は続くと見られている。中国工程機械協会の予測によると、今後5年間で中国国内の建機市場需要は年平均17%増加し、2015年までに9,000億元前後に達する。第12次5ヵ年計画期間中、政府は30トン以上の油圧ショベルや最大荷重6トン以上のローダーなどのハイエンド製品、および動力システム・伝動システムなその重要部品産業の発展に力を入れていく構えである。
(新華社新華網ニュース 1月26日付)

3. 工作機械関連企業動向

◆米国：Hurco社、2010年度第4四半期および通年の決算を発表

対話型コンピューター制御装置、ソフトウェア、コンピューター制御工作機械の設計、製造を手掛けるHurco Companies, Inc.社は、このほど2010年度第4四半期（2010年10月31日期末）と2010年度通年の決算を発表した。

2010年度第4四半期の純損失は116万2,000ドルで2009年度同期の純損失116万3,000ドルとほぼ同水準にとどまったが、2010年度通年の純損失は574万4,000ドルで、キャッシュフロー・ヘッジの実現利益202万8,000ドルを損失補填に充当できた2009年度損失の232万1,000ドルを大きく上回った。

売上高は、2010年度第4四半期が前年同期比50%増の3,471万5,000ドル、2010年度通年が前年度比16%増の1億589万3,000ドルだった。

2010年度通年の地域別売上高は北米が前年度比8%増の2,781万8,000ドル、欧州が9%増の6,567万8,000ドル、アジア太平洋が137%増の1,239万7,000ドルだった。

アジア太平洋地域の売上高の伸びには中国市場、インド市場での需要増、低価格エントリーレベル機種への根強い需要が寄与している。また、縦型マシニングセンタの需要が、特に第4四半期には、全地域で堅調に推移した。

新規受注高は、2010年度第4四半期が前年同期比80%増の3,610万6,000ドル、2010年度通年が前年度比43%増の1億1,531万5,000ドルだった。

なお、2010年度通年の地域別新規受注高の伸びは、北米が前年度比38%増、欧州が28%増、アジア太平洋が288%増となっている。

Hurco社のMichael Doar社長兼CEOによれば、2010年度第4四半期の新規受注レベルは、同社最大市場の欧州それに北米で2008年に始まった今回の景気下降前の水準をほぼ回復し、同社工場の稼働率も景気下降前の水準を取り戻している。

(Hurco社プレスリリース 2011年1月12日付)

◆スイス：受注、販売ともに好調だったMikron社の2010年決算

製造技術分野の顧客仕様工作機械や組立システムのプロバイダー、Mikron Groupの2010年決算は、受注高が前年比69.5%増の2億1,980万スイスフラン、純売上高が21.6%増の1億8,250万フランと好調だった。

2010年上期の好調な需要が下期を通じて継続し、2010年末の受注残高は前年比63.9%増の8,390万フランとなった。

こうしてMikron Groupは景気好転から並外れた恩恵を受け、また、減量経営も寄与して、危機的状況から脱出している。

Mikron社製品の堅調な受注および需要は2011年も続いていて、収益性の改善に寄与すると見込まれているが、スイスフラン高が収益性改善のマイナス要因になりそうだ。

Mikron社「マシニング部門」は複雑な金属部品を高効率で機械加工する工作機械や切削工具を生産している。2010年には中国およびインドからの需要が堅調で、特に中国の自動車関連サプライヤー各社からは初めての機械納入契約を成約している。また、欧州自動車産業の生産水準回復がMikron社工具およびサービス事業に寄与している。

「オートメーション部門」は主に薬品、医療機器産業向けの自動組立システムを製造しているが、近年は他産業向けシステムの比率が高まっている。

2010年の部門別受注高は、マシニングが前年比103.7%増の1億2,120万フラン、オートメーションが41.7%増の9,960万フラン。2010年純売上高は、マシニングが前年比53.6%増の1億2,120万フラン、オートメーションが4.0%減の7,990万フラン。2010年末受注残高は、マシニングが前年比69.3%増の3,690万フラン、オートメーションが60.1%増の4,660万フランとなっている。

(Mikron社プレスリリース 2011年1月27日付)

4. その他

◆ユーザー関連トピックス

インド：農機の米ジョンディア、インド第2工場を建設へ

「ジョンディア」ブランドの農業機械で知られる米ディアは1月19日、新工場をインドに立ち上げ、プネに持つ既存工場についても生産能力増強を図

る意向を明らかにした。投資予定総額は約1億ドル（約45億ルピー）。同社の発表によると、新工場ではインド内外で販売する小型トラクターを生産する。建設予定地はまだ決まっていないという。現在インド訪問中のサミュエル・R. アレン会長兼CEOは「農業・建設機械の製造・販売は当社が世界中で展開している中核事業であり、その事業機会の拡大を今後もジョンディア・ブランドを中心として図っていくつもりだ。インドのトラクター市場でも当社のシェアは拡大を続けており、今回の大規模な投資でその勢いをさらに加速させていきたい」と語った。

(インドビジネスセンター 1月20日付)

インド：現代インディア、新ディーゼル・エンジン工場はチェンナイに建設か

韓国・現代自動車のインド子会社、現代モーター・インディアが建設を計画している新ディーゼル・エンジン工場がチェンナイ近郊シュリペルンブドゥルの現有工場に隣接して建設される模様。タミル・ナドゥ州政府のラジーブ・ランジャン産業担当筆頭次官が1月21日、チェンナイで報道陣に語った。ランジャン次官によれば、現代インディアは1月13日、州政府に総額150億ルピーの新ディーゼル・エンジン工場建設計画を申請。まもなく州政府と同社の間で覚書が交わされる見込み。工場の年産能力は15万基で、立地は現有シュリペルンブドゥル工場敷地内の遊休地になるとみられるとのこと。1996年設立の現代インディアは、チェンナイ近郊に2つの工場を保有しており、その累計投資額は7億4,000万ドルに上る。

(インドビジネスセンター 1月25日付)

EADS、風力発電設備市場に参入

欧州航空宇宙大手EADSが宇宙部門Astriumを通して風力発電設備市場に本格参入する。Astrium経営陣への取材をもとに12月23日付『ファイナンシャル・タイムズ（ドイツ版、FTD）』が報じたもの

で、すでに仏エネルギー大手Arevaと仏タービン大手Vergnetから受注を獲得したという。

Astriumが製造するのは風力発電用のローター。宇宙事業で培ったノウハウを活用して開発・製造する。将来的には欧州市場の最大手メーカーとなる目標で、すでにAreva向けには長さ23メートルの小型ローターを納入した。Vergnetからは同30メートルの製品40個強を受注しており、2011年から生産を開始する。

洋上風力発電向けローターも手がける考えで、同社製品を用いた洋上風力発電施設が2012年末までに稼働する見通し。長さは60メートルで、発電能力は約3.5メガワットに上る。

(Financial Times Deutschland 2010年12月22日付)

ポーランドのアヴィエーション・ヴァレー、中東欧の航空産業拠点に

ポーランド南東部のジェシュフを中心とする地域は古くから航空関連産業が発達し、「アヴィエーション・ヴァレー」と呼ばれている。近年では中東欧の航空産業の集積地として注目を集めており、国内外の約80社が拠点を構えている。

米航空・宇宙システム大手ハミルトン・サンドストランドは昨年10月、航空機用エンジン工場の建設に着手した。工場にはエンジニアリングセンターも併設され、投資額は1億ズロチ(2,650万ユーロ)。雇用規模は300人で、来年4月の稼働開始を予定している。ミエレッツでは航空機エンジン大手

の独MTUエアロエンジンズが08年春からタービンブレードを生産している。今年は従業員を280人から400人に増員する計画だ。アヴィエーション・ヴァレーにはこのほか、プラット&ホイットニー、シコルスキー・エアクラフト、ボルグワーナー・ターボシステム、グッドリッチなどの大手メーカーが進出している。ジェシュフ地域開発局(RARR)によると、アヴィエーション・ヴァレーでは今後、加航空機部品大手のVACエアロ、ポーランドの工作機械メーカーZelnarなどが投資を予定しており、総額10億ズロチの新規投資が見込まれているという。(米ダウジョーンズ通信の報道、リンクなし)

(Dow Jones 2010年12月28日付)

米ハネウェル、スロバキアにターボチャージャー工場建設

航空宇宙機器・制御機器大手の米ハネウェルはスロバキア東部に自動車向けターボチャージャーを生産する工場を建設する。同国経済省が12月末に明らかにした。

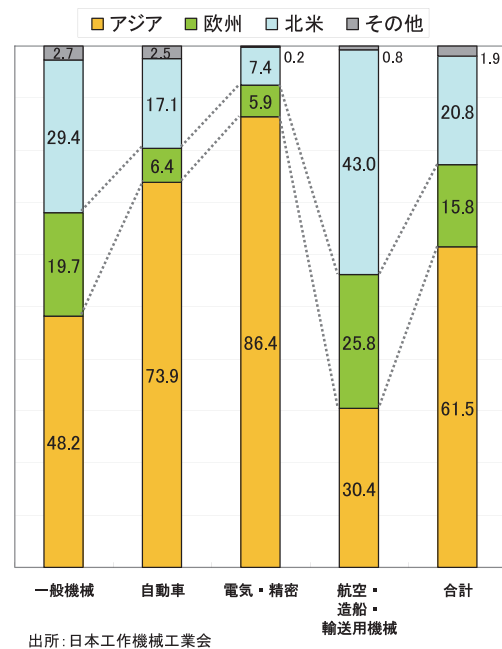
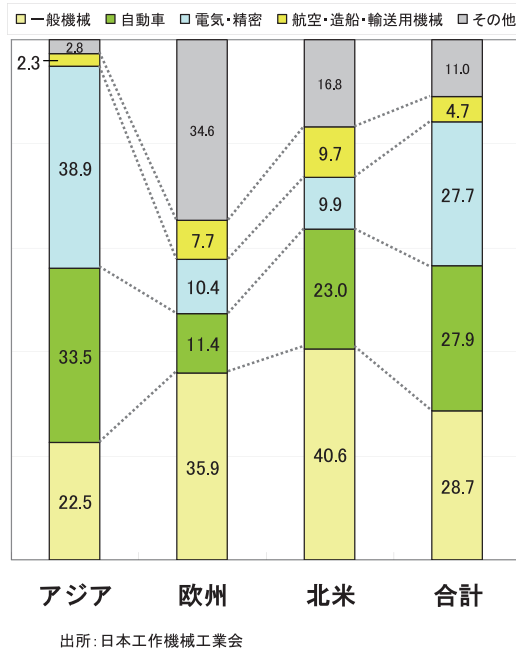
ハネウェルが同省に提出した投資計画によると、投資規模は3,380万ユーロ。新工場では446人を新規雇用する予定だ。スロバキア政府は同社の助成要請に対し、税制優遇措置などで投資規模の最大半分を助成することを検討しているという。

(Radio Slovakia International 2010年12月22日付)

5. 日工会外需状況(1月)

外需【1月分】

機種別・主要3極別受注構成



外需【1月分】

主要3極別受注

①アジア

- ・アジア合計で初の400億円超え
- ・中国は初の300億円越えで、東アジアでも史上最高額を記録
- ・外需全体に占める東アジアのシェアが5割を突破

②欧州

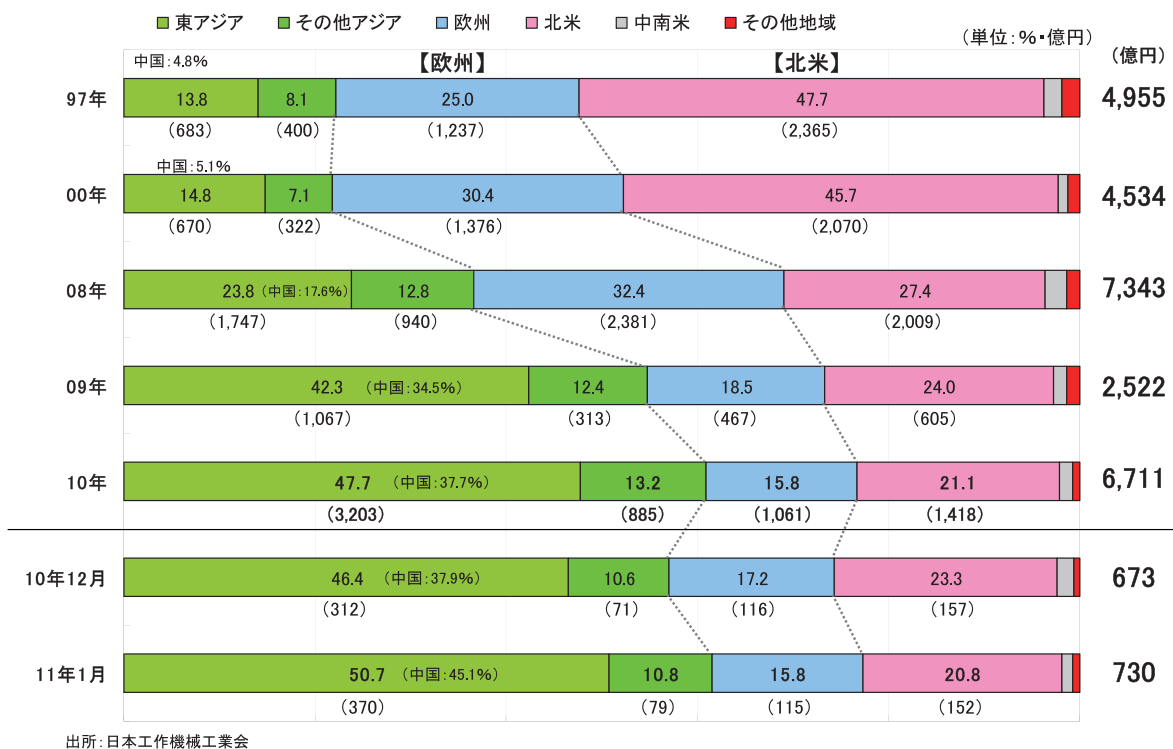
- ・全体ではほぼ横ばいで推移
- ・ドイツは5カ月ぶりに前月比マイナス

③北米

- ・前月比マイナスとなるも、2カ月連続で150億円超
- ・アメリカが減少したが、メキシコは自動車関連を中心に増加

業種	受注額 (億円)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
アジア	449	+17.1 2カ月ぶり増加	+72.7 16カ月連続増加
東アジア	370	+18.4 2カ月ぶり増加	+84.0 16カ月連続増加
韓国	28	△36.4 2カ月ぶり減少	+19.3 15カ月連続増加
中国	329	+29.1 2カ月ぶり増加	2.2倍 16カ月連続増加
その他アジア	79	+11.1 3カ月連続増加	+34.1 16カ月連続増加
インド	20	△17.6 2カ月ぶり減少	+40.9 3カ月連続増加
欧州	115	△0.8 2カ月連続減少	2.1倍 13カ月連続増加
ドイツ	41	△17.5 5カ月ぶり減少	2.3倍 13カ月連続増加
北米	152	△3.2 2カ月ぶり減少	2.1倍 13カ月連続増加
アメリカ	128	△8.7 2カ月ぶり減少	2.3倍 13カ月連続増加
外需計	730	+8.5 3カ月連続増加	+85.5 15カ月連続増加

受注外需 地域別構成比の推移



主要国の工作機械生産額

(1) 10年日本の切削型工作機械生産額 : 105.8億ドル(前年比 +81.6%)

昨年の3位からドイツを抜いて2位に浮上

(2) 10年の世界の切削型工作機械総生産額

484億ドル(前年比 +23.9%) 2年ぶり増加

(3) 中国が2年連続で世界第1位の生産額を記録

日本の過去最高額を超える生産額

・韓国、台湾がイタリアを抜き5強に

【2010年世界の切削型工作機械生産額】

順位	国・地域	金額(百万ドル)	世界シェア(%)
1	中国	14,680	30.3
2	日本	10,580	21.9
3	ドイツ	6,862	14.2
4	韓国	3,102	6.4
5	台湾	2,929	6.1
6	イタリア	2,736	5.7
7	スイス	1,831	3.8
世界28カ国計		48,398	100.0

出所: Gardner Publications, Inc 資料
注) 日本の為替レートは1ドル=87.82円

【主要国の切削型工作機械生産高】

